

## 「学校関係者評価委員会」の開催について

本校においては、教育や業務の改善を図るために、自己点検・評価に取り組んでまいったところですが、2013年度からは、卒業生を含め本校に関係の深い業界団体、関係企業の方々を中心に「学校関係者評価委員会」を設置し、ご意見等をお聞きして、教育活動や学校運営に反映させております。

2023度の学校関係者評価委員会については、新型コロナウイルス感染防止対策を行いながら、2023年6月初旬に対面およびオンライン参加によるハイブリッド型会議として開催いたしました。

今後とも、学校関係者評価委員会の運営に対してご理解並びにご支援・ご協力をお願い申し上げます。

2023年 6月  
学校法人Y I C学院  
〈専〉Y I C京都工科自動車大学校  
校長 村田 忠男

〈専〉YIC 京都工科自動車大学校学校関係者評価委員会議事録

会議名	2023 年度第 1 回学校関係者評価委員会
日時	2023 年 5 月 26 日 (金) 13:30~15:00
場所	〈専〉YIC 京都工科自動車大学校 1 号館 3 階 131 教室
参加委員	<p>一般社団法人京都府自動車整備振興会 専務理事 矢川賢治様          滋賀タイハツ販売株式会社 代表取締役 長鳥居和浩様(代理 磯田優人様) (オンライン参加)          いすゞ自動車近畿株式会社 人材開発室教育部部長 後藤佳也様          株式会社レオタニモト サービス本部部長 木下敬朗様          ネットヨタ京華株式会社 水元友哉様          ネットヨタ京華株式会社 吉田怜司様</p> <p>事務局：村田校長、山根管理部長、澤総合支援室長、喜多教務課長</p> <p>ワザバ：課長補佐小林先生、課長補佐三宅先生、一級自動車整備学科科長竹下先生、自動車整備科科長住本先生、細田参与、内部監査・IR 戦略室鳥井</p> <p>欠席：京都トヨペット株式会社 ネットヨタ京華株式会社 執行役員統合管理副本部長 藤崎修様          有限会社嶋自動車電機 代表取締役 嶋雅明様</p>
議長	藤崎委員
記録者	内部監査 IR 戦略室：佐藤
配布資料	委員会名簿、2022 年度〈専〉YIC 京都工科自動車大学校自己点検・評価結果、教育課程一覧、コース別カリキュラムマップ、カリキュラムマップ
<b>進行</b>	
1) 校長挨拶	<p>本日はご多忙の折、ご参集賜り誠にありがとうございます。          まず、本校の最近の状況をご報告させていただきます。</p> <p>23 年度の学校関係者評価委員会にお集まりいただき、誠にありがとうございます。コロナ禍で卒業生の方が参加いただくのは久しぶりでございまして、お忙しいところありがとうございます、平素より、皆様方にはお世話になっておりまして、この機会をお借りいたしまして、厚く御礼申し上げます。</p> <p>昨年、12 月に、未来の年表業界大変化瀬戸際の日本で起きることという本が出版され、その中で、整備士不足で事故を起こしても、車が治らないといった、近い将来、整備不足の時代がやってくる。そういったことが書かれていました、特に最近、特定技能 2 号について 6 月に方針が出るようです。こうした動きも加速しており、非常に整備士の不足感が、強くなっておるという理解でございまして。その中で、私どもとしても整備士をできるだけ多く排出していきたいという思いです。今年の入学生につきまして、まず、状況を説明させていただきます、自動車整備科、4 輪コースと 2 輪コース。定員 60 名で、設定してございまして、54 名の入学がございました、旧自動車整備科定員 20 名のところ、16 名の入学者。国際自動車整備科、定員 40 で入国規制の関係で留学生の方が日本の日本語教育機関等にいらっしゃらないという、事態が続いているという理解から、非常に案じていたが、幸い 39 名の入学者がございました。加えて、1 級への編入者も合わせると合計 117 名の新入生を迎えた。</p> <p>この 117 人の方に、全力を持って整備士になっていただけるように、頑張っていきたいと思っております。</p> <p>また、中国中国の山東省淄博市 (しはく-し) の職業学院と提携を結び教員をそこに派遣して、そこで教育をしていくというプランがコロナ禍のことでオンラインでの授業となりましたが、昨年度は、春と、秋に授業があるんですが、今現在も、春の授業をやっております新しい取り組みも、開始したところでございます。</p> <p>それから学校運営する学校法人の状況につきましては、私立学校法という学校法人の基礎となるような法律があり、その法律が 4 月の末に改正になりました。主な点は、日本大学の不祥事、色々なところで学校法人の不祥事というのは続いており、理事長、理事の、機能をよりけん制する監事等をはじめとして評議員会、監事、この辺りの機能をより評価して、理事長のま機能というものをけん制していくという風な、改正がなされまして、2 年後からスタートすることになります。もちろん京都中央学院はこの 4 月から、YIC 学に名称を変更しておりますが、YIC 学院も、その対象でございまして、そういう役割の変更とかも含め 2 年後には行っていく。今後、進めてまいる必要があると考えているところ。本日はこの学校関係者評価については、学校運営全般ということで、法人の状況等も出てまいります。忌憚のないご意見を寄せていただいて、私どもの運営の改善に役立てていきたいと考えておりますので、何卒よろしくお願いたします。</p>
2) 関係者評価委員紹介	各委員挨拶
3) 教職員紹介	各教職員挨拶
4) 定員数確認および委員長の選出	第 7 条第 2 項のとおり 8 名中、5 名対面、1 名オンラインにて出席、2 名欠席で過半数以上で本委員会は成立する。議長は後藤委員を推薦、全員に承認された。ハイブリッド会議となるため進行は法人の山根が担当する。
5) 配布資料等確認	資料読み上げ

6) 議題

1. 2022 年度の自己点検評価結果について

令和 4 年度の自己点検評価結果について

・「2022 年度〈専〉YIC 京都工科自動車大学校自己点検・評価結果」に基づき、教務科長の喜多より評価方法の見直し、および以下の項目についての喜多課長より説明があった。すべての報告は時間の都合上難しく、課題についてご報告させていただきます。

- ① 1. 教育理念・目標
- ② 2. 学校運営
- ③ 7. 学生の受入れ募集
- ④ 8. 教育の内部保証システム
- ⑤ 9. 財務
- ⑥ 10. 社会貢献・地域貢献
- ⑦ 11. 国際交流

2. 2022 年度の課題と重点項目について

評価項目	項目番号	課題と今後の改善
1. 教育理念・目標	1-2	<p>課題：1-2 学校の将来構想を描くために、業界の動向やニーズを調査しているかにおいては、エビデンスとしては 7 月開催予定の自動車整備関係企業連絡懇談会アンケート、合同企業説明会に参加いただく企業様へのアンケートなどと記載のとおり。点検整備の技術とコミュニケーションスキルの充実などのご意見をいただいた。特に本校では技術について 4 つのセクションに分けて行っている。点検や故障診断については総合実習に合わせて作業説明の授業をさらに強化して行っているが、直近のニーズは把握できているが、例えば 10~15 年後のニーズを把握する事が困難である。</p> <p>今後の改善方策 1-2 においては、直近で必要なニーズと近未来で必要と思われるニーズを明示し、意見を伺う。</p> <p>↓</p> <p>教育理念、教育目標の項目に関しまして、学校の将来構想を描くために業界のニーズを調査していますか。点検項目に関しまして、3 の評価。企業様から求められる部分に関しては、例えば、点検整備のスピード、正確性、コミュニケーション力といった部分については後半部分の、教育課程編成委員会におきまして、どういった授業に置き換えたのかは後ほどご説明差し上げます。今現在、悩んでおりますのが自動車の方がかなりオートメーション化が進んでくるであろうと。近々行われる大阪万博でも輸送に無人車両だという話になっています。自動運転が、今後、一般道走る時代も近くなってきてるのではないかなという風に考えております。自動化や電動化っていうのは大きく進んでおります。自動車の大きな進化、特に自動運転の場合は、エンジニア、販売店、もしくは車を作成したメーカーの立ち位置が変わってくるかと思っています。自動化等が進んだ際の、企業様の認識、政治に対してどのようなニーズを求めておられるのか。といった部分をぜひ、伺いたい。</p> <p>整備振興会や企業様の方では、今現在、完全の自動運転っていう部分はまだないのかと思うんですが、一般の企業様の方から自動運転に付随するような部分があったり、特定制御の部分で何か質問を受けることがあったなど、ご存知であれば教えていただきますと、授業に組み込むことも可能と思います。</p>
2. 学校運営	2-8 2-9	<p>2-8 専任教員の講義・実習負担は妥当であるかについて評価を 2 ややや不適切とした。</p> <p>2-9 教育内容の改善を図るため、教職員と非常勤講師等との定期的な情報交換を行っているかについて</p> <p>課題</p> <p>2-9 はコロナ禍で年度初めに集まっていた機会のみとなっている。また、企業連携授業を担っていただいている企業様には担当教員を 2 人体制とした。</p> <p>2-8 においては、昨年よりハイブリッド型授業を行っている。対面とオンライン（中継）を同時に行うなどの対応をおこなっている。質問などは各教室の担当教員が行うように実施している。今後の改善方策としては</p> <p>2-8 においては、学科・学年ごとの学科と実習のタイミングを根本から変更し改善につなげる。</p> <p>2-9 においては、オンラインの活用や個々の先生方と個別にコミュニケーションをとり情報交換に努める。</p> <p>↓</p> <p>2 の 8 に関しましては、専任教員、常勤は学科と実習と、要は、授業の時間負担に関してコース長、学科長といったところになっておりますが学科長、コース長でも 1 週間に 17 コマあるところ、14~13 コマ持っている。一応、私でも、1 週間、10 コマ持っている状態になっています。教員の時間数減らすのは、なかなか困難の中ではある。今現在の課題が残っている。改善方法としまして、今年度から実施したいと考えていた 2WEEK-1COURS 制と言っている 1 年、2 年を授業と実習を 2 週間ずつ入れ替え制で行う制度の運用を検討。</p> <p>企業からお越しいただく先生方と定期的な情報交換についてコロナ禍による影響もありましたので、なかなか、授業の際や非常勤の先生とゆっくりお話しすることが、なかなかできない状況</p>

		<p>でした。オンラインの活用や個々の先生方とは個々に対応しているという状態ではありません。コロナ以前は年3回行っていましたが今年度からは再開したいと考えております。</p>
<p>3 教育活動</p>	<p>3-5</p>	<p>3-5の学習参加の前提としているスキルや要件などに不足がないかを確認するためのアンケートやヒアリングを行っているかについて</p> <p>課題 3-5においては、リメディアル学習（入学前学習）による学習効果が明確でない。 3-12においては、シラバスのHP上での公開が授業開始に間に合っていないとした。 中でも入学前学習においては数年前より実施しているが、課題をより明確にするために進研アドの基礎力リサーチを今年度より導入した。後ほど今期の学習成果と授業アンケートについてご報告させていただきます。</p> <p>今後の改善方策 3-5においては、リメディアル学習のベースとしたWEBトレーニングを入学後に行い、トレーニング終了後に確認テストを実施する。確認テストの結果、苦手な科目についてWEBトレーニングを実施してさらに学習し成績向上につなげる。基礎学力の向上を目指す。 3-12においては、理事会での承認時期も含めて再検討いただく。 ↓ 学習参加の前提条件に関して、スキル向上を目的として、入学前学習教材への取り組み、基礎力リサーチと呼びますが、入学前に学んだ、その課題範囲からの確認試験を行い、どれだけ基礎力が上がったのかをチェックする取り組みをしています。</p> <p>確認試験実施方法活用も出ています。 学生の傾向という表現がいろいろかどうかわからないが、例えば、試験を行い一科目不可になった。本校の場合、1科目不可の成績であっても再試験があります。 以前までは、再試験に頑張りたいので、放課後を教えてくださいませんか。といったような動きが多かったが、近年の学生の中には1科目でも不可となると整備士に向いてません、辞めます。とすぐ心が折れてしまう学生がちょっと増えてきている。 基礎力リサーチには自分自身が、今、学校に対して、どのように感じているのかとね、もしくは、自分が勉強するにあたって、どんなことを不安に思っているのかについて、分かるようになっていきます。 学校にたいして不満足なのか、もしくは、自分は承認を受けていると思ってるのか、もしくは学校側に支援を求めているのか、学習成果の方は2023年度生も大体ほぼ同じ時期の5月の下旬より6月の月上旬に確認試験の1回目を行いました。こちらはスマートフォンで勉強ができる、オンラインウェブ学習導入しています。例えば、計算が苦手な学生であれば、計算が主に勉強できるや、読み書きの方が苦手な学生であればそれを重点的に勉強できるプログラムをその学生に合わせて送信。4か月後にもう1度、確認試験を行い成果を確認する。入学前学習の成果を見る中で、1回目の試験よりも、2回目の方が下がってしまった学生が複数名いました。 入学前学習を一生懸命取り組んだことによって、問題を解く力を取り戻していたということについて入学前に行うその事前学習の効果はありましたか。といったアンケート関しましては、75.7%の学生が効果があると答えていました。こちらについては続けていく価値はある。あとは学習習慣をいかに継続させるのが、今後の課題になる。</p>
<p>4 学修成果</p>	<p>4-4 4-5</p>	<p>4-5 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか（卒業生の就職後の動向を出来るだけ把握し、卒業後にも就職その他の支援を行っているか）について 課題：4-5 卒業後の活躍、評価を把握しているか。 2022年度に関して、学び直し資格や国際自動車整備科の卒業生を対象に試験的にアンケートを実施した。YICで学んで良かったなど回答があった。</p> <p>体制の強化 4-11 卒業後のキャリア形成として卒業生のフォローをアンケートなどを検討中。 今後の改善方策 4-5・11においては、企業様との連携に加えて、卒業生へのWEBアンケートや同窓会を実施し直接的な把握に努める。卒業生の思いも集められるようにし、対応を検討する。 ↓ 4-4 退学率の低減について、1年間の退学率は3%を切るような状況が、昨年度は、留学生で学費の都合で帰国したもなど除籍4名ほどいた。昨年は6.7%の退学者、17名中、2年間ほど休学した学生が退学するなど、うち12名は学習意欲の低下など特殊な事情がない学生が退学に至った。 クラス別では担任がご家庭と連絡を密にしているクラスとそうでないクラスとで連絡が取れていないクラスほど退学者が多かったことが判じた。 退学のタイミングや進路のマッチングミス、就職など進路変更はもちろんクラスに馴染めなという学生が4月、5月に一番多い。2023年度に入学した117名中、2名がすでに退学の意向を示した。 課題としてはHyper Q-Uアンケートで要支援と分析された学生。まずはご家庭としっかり連携して教員間で共有する。</p> <p>4-11 卒業生や在校生の、社会的な活躍及び、評価を把握していますか。にたいして昨年度国際</p>

		<p>自動車整備科の卒業生を対象にアンケート実施した。 全卒業生に向かったの、アンケート送信で、しようとしています。ちょうど、1ヶ月ほど経ちましたので、卒業時の学科長さんや、担任の先生の方からの発信を考えてはおります。</p> <p>実施対象者を企業教育担当者や採用担当者としていない。</p>
5 学生支援	5-5 5-12	<p>5-5 について評価を 3 に、5-12 については評価 2 とした。</p> <p>課題 5-5 卒業生への卒業後教育等の支援体制はあるかにおいては、各企業様もしくは卒業生が母校に求める支援内容と実態の把握不足。 5-12 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているかにおいては、キャリア教育(ガイダンス:職業別理解)等を除いては連携授業等は実施していない。今後の改善方策 5-5 においては、企業様、卒業生のニーズを把握し、実態にあった支援を行うよう勤めて参ります学び直しの思いについても叶えられるように体制を検討。 5-12 においては、コロナ禍で行えていないことが挙げられるが、高校や、日本語学校において出張授業が行えるように訪問し紹介している。高校へは夏以降を検討。 WEBによるオープンキャンパスと同様に高校または自宅に居ながら体験・相談が行えることを周知する。 ↓ 5-2 学生の相談に関する体制が整備されていますか。といったところで、本校の場合、学生相談窓口やスクールカウンセラーに来ていただいています。今現在、過去には学生の方がなかなか、相談の申し込みがなかなかしにくいと、中には敏感な内容だったりするものもありますので、担任を通して申し込みにくいという部分もありました。相談窓口は本部グループの方から学生全員使えるように作ってありますので、カウンセリングを申し込める。カウンセリングを申し込めるシステムの方導入を目指しておりました。このグループからの申し込みシステムは導入の方が、進んでおる次第です。 自動車の学生がカウンセリング使う数は多くない現状ではありますが、我々教職員に相談しにくいのであれば、カウンセラーの先生、ぜひ、相談をしていただくよう考えています。</p> <p>5-10 高校、高等専修学校等との連携によるキャリア教育、職業教育の取り組みに関しましては、2022 年度と大きな変更はございませんでした。やや不適切、もしくは不適切の評価とした。ガイダンスの方への協力の方は、もちろんしてはおります。キャリアガイダンスの方がなかなか、実施できなかったりコロナ禍の影響もあるんですが実施できていない状況。 オンラインで、高校生の方は、高校の教室で、我々は、こちらからオンラインでっていうことも、考えてはいましたが、高校様の方に、広く周知できなかったことが反省点の 1 つとして考えております。</p>
6 教育環境	6-2 6-3	<p>6-2 実習室には実習に必要な設備が備わっているか、また、 6-3 各専門分野において基本的に用いる機材等を使用できる実習室が備わっているか、また必要な数の機材等を使用できるかについて 課題： 6-2・3 においては、ASV の学習に必要な車両等が少ない。 6-4 においては、図書スペースはあるが、所蔵書の内容が十分でない。</p> <p>今後の改善方策 6-2・3 においては、実習車両・教材の適宜入れ替え(3~4 年毎)、及びリース車両等の導入と実施。 6-4 においては、他分野との所蔵スペースを考慮しながら学生が閲覧可能な自動車分野の書籍を増やす。とのバランスを取りながら対応したい。とした。 2022 年の取り組みとして一級自動車整備科上級学年に対し自動運転プログラミングの授業を組み込んだ。学生の学習評価や授業アンケートを実施。結果、学生からもよい回答が多く、今後は下級生に向けた授業の取り組みを検討するとともに指導する教員側の技術の向上として全教員に知識量のアップとなる研修を行っている。また、カーボンニュートラルに対応する学びではタイヤを直接モーターで駆動する車両が増える傾向からエンジン実習の学びにモーターの授業を組み込んだ。 6-4 については各メーカーからの教材や資格試験対策の問題集の充実を図った。 ↓ 6-2・3 においては、第 1 種養成施設ですので、全てが揃った状態にはなっております。各企業様にご尽力をいただいている中で実習教材の方、もちろんスペースの関係もありますので、1 番悩んでおりましたのは、やっぱり asv です。自動運転もそうですし、緊急ブレーキ等もそんなんですが、そういうした asv の車両の入手は大変困難であったという形になっています。企業技術講習等の実施を企業様の方に asv の車両の実習の方を進めてさせていただいた。 教育課程編成委員会でもお話ししますが、モーター駆動の授業の準備を昨年からは行い、asv に関しましては、例えば、緊急ブレーキのエーミング等を企業技術講習でエーミングの実施をしていただくのですが、時間の限りがあり全員がなかなか実施できないので、本校の既存の車両をエーミングが必要な車両であると仮定して、演習として実習の方で行って来ておりましたが、カメラ搭載の実習車で今年度からは講習前の事前学習も深い内容が実施できると考えております。</p>

		<p>6-4 においては、図書室がありますが、なかなか蔵書の方が、少ない、グループウェアの方から、調べることができて、貸し出しができるように考えておりました。本校4校ありますので、まず、4校との兼ね合いもあるという中で、悩んでいる次第ではあります。</p> <p>ただ、工科自動車大学校の中で、図書スペースという表現になるかもしれないですが、そちらの方を、ちょっと準備をして、独自に貸し出し、メーカー様からお預かりしている技法であったり、過去の国家試験の問題集等貸し出して、もしくは、その閲覧、勉強できるようにしようといった形で、まず、図書スペースを今現在進めている。</p> <p>ペーパーレスの時代ですので、書籍を pdf 化して書籍を廃棄した。</p>
C	7-7	<p>7-7 学力の不足や障がいに関する特別なニーズを特定しているかについて評価を2とした。 課題</p> <p>7-7 においては、学習障害や適応障害の対応力等が不十分である。</p> <p>今後の改善方策</p> <p>7-7 においては、対応方法や支援方法に関する研修会やセミナーに参加、教務内研修発表会にて共有する。</p> <p>教務だけでなく、YIC 京都校全体で支援する体制を構築することも必要。 教員が研修会に参加しておりますが、情報の共有など指導成果が不十分。</p> <p>↓</p> <p>7-7 学生の受け入れ募集について、学生募集については予定通りに進んでおりますが、学力の不足であったり、障害を持っておられる方への、特別なニーズであったりとか、課題としましては、学習障害であったり、適応障害を持つ学生の対応等が、どうしても不十分。この春の卒業生で2級のカソリンおよびジーゼル両方とも不合格になってしまった学生がいましたがその学生も多動性障害がある方でしたので、どうしても授業中じっとしてられないといったところがあった。一応、そういう対応方法で支援方法に関する研修会、もしくはセミナーに各教員が参加して学んで、参加した教員が職員会議というものがありますので、教務内研修として発表会を行って、対応方法等を情報共有している。</p> <p>2022年にLGBTQに関するご意見がございました。 今年度2023年に新入生より1名、本人からの申し出により分かった。 男子更衣室、トイレに関しては問題ありませんとのことでしたが、嬉しかったのは学生たちの理解。我々の時代であればじめの対象となっていたと思えるような容姿ではあるが、今の若い方たちは身近に感じている、そうしたLGBTQという存在を理解しているのだとすごく感じるところがあった。現状、実習や授業の時に彼がじめられているや浮いているといったことはないように見受けられる。 我々が逆に構えずにいるのかとも思えた。今後、企業様の受け入れもおおのずと増えていく可能性は十分あるとして対応などについて教えていただけると嬉しい。</p>
8. 教育の内部保証システム	8-2 8-6	<p>8-2 適切な評価体制を有し、授業評価が実施されているか(教育内容やカリキュラムを評価しているかまたその評価方法、手段、スケジュールはどのようであるか)</p> <p>8-6 教職員の仕事に対する意欲や満足度について聞き取りを行っているかについて 課題</p> <p>8-2 においては、教員による授業参観が困難な場合が多い。</p> <p>8-6 においては、年3回の面談に加えて、適宜相談できる場を設けているが十分とは言えない。</p> <p>”</p> <p>今後の改善方策</p> <p>8-2 においては、授業参観の期間中の時間割を調整し、多くの教員が授業を参観できる体制が必要。</p> <p>8-6 においては、オンラインにて個別に相談できる場を設け、機会を増やす。</p> <p>教育内容やカリキュラムについては養成施設でもあるので厳しくしているが、授業参観2022年度は実施回数が少なかった。今年度については副校長の下、実施スケジュールが進んでいるが、工科は時期をずらして実施予定。8-6については適宜学校の指定する年3回以上実施するなどの対応を検討している。</p> <p>↓</p> <p>8-2 授業評価が実施されているかについては年2回授業アンケートを実施してその結果をみて改善しておりましたが、今年度は(半期15週のところ中間で1回実施して、アンケート結果から授業改善、授業実施方法の見直しを行い残り8回修了後にも実施して、年4回の実施を行い、授業の質の向上に繋げて行きたいと考えている。</p> <p>8-2 適切な評価体制を有し、授業評価が実施されているか、教育内容やカリキュラムを評価しているかまたその評価方法、手段、スケジュールはどのようであるかについて授業アンケートの活用以外に相互授業観察を実施しており、他の先生方の授業をチェックしてお互いの意見を交わす、報告書を作成するという取り組み。昨年度の他校の先生方にお越しいただくことが出来なかったため今年度は改善したい。</p>
9. 財務		特になし

10. 社会貢献・地域貢献	10-2	<p>10-2 学生のボランティア活動を奨励、支援しているかについて 課題 10-2 においては、教員と学生による「京都みやこ土曜塾」等がコロナ禍により2020年度、2022年度は実施出来ていない。対象は中学生以下で2022年度は実施予定。学生はローテーションで参加予定を検討。 今後の改善方策 10-2 においては、ボランティア活動の持つ意義を教員・学生ともに理解し、コロナ禍でも実施可能な内容に絞り実施する。オープンキャンパスなど特定の学生に関して実施はできているが、全校で取り組める内容を検討している。 ↓ 10-2 学生のボランティア活動を奨励、支援しているかについて 京都府が主催する「わくわくの扉」という取り組みに参加している。小さなお子さんを対象に自動車整備士などさまざまな職業体験ができるイベント。 コロナ禍の中、昨年は実施できた。今年度も、実施させていただいて、少しでも、地域貢献として、学生にとっても小さなお子さんに教えるってことがいゝ勉強になりますので、学びの場とさせていただきますと考えております。</p>
11. 国際交流	11-3	<p>11-3 留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているかについて 課題として 11-3 においては、オーバーワーク等に関する指導について対応が困難な面がある。  今後の改善方策としては11-3においては、教務課と支援課で連携をとり、学生の生活指導を繰り返し行う。 留学生は28時間/週以上のアルバイトをしてしまうなどは日々の朝礼にてルールは守るよう繰り返し指導している。先輩から間違った情報などについて従うなどの学生がいるが、尋ねられた際はきちんと日本の規則などを守ることに指導している。アルバイトしている学生についてはシフトの状況なども把握するよう面談を実施するなど生活面のサポートも行っている。 ↓ 11-3 留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているかについて 課題として 11-3 においては、一番心配なのがオーバーワーク。1週間で28時間以上のアルバイトをしてしまった場合、バイト料の使い込み等に関する指導について対応が困難な面がある。留学生に対して、簡単に言えば、毎月の家計簿を作成させる。いくら収入があったや、学費を払うためにいくら貯金するなど毎月指導している。もちろん取り扱いは大変に注意している。貯金、学費納入とオーバーワークを未然に防ぐため、今現在、今年度から導入しています。</p>

3. 2022年度の取り組みへの意見等

評価項目	項目番号	ご意見・質問 (委員)	回答 (事務局)
1. 教育理念・目標	1-2	<p>矢川 実物がなかったり、なかなか難しいんですが、その基本的な作動、構造については学生のうちに勉強しておくべきかと。自動運転とか関係なく、従来の車両でも構造や仕組みはしっかり頭に入れてから現場に出た方がすごく楽にはなる。その基本的なところがやっぱり大事。</p>	<p>喜多 ありがとうございます。情報提供していただけないと教えることができない。整備する上でも、新車になればなるほどメーカーの外部診断機等が必要など顧客の困り込みとなってしまうことが心配されます。</p>
1. 教育理念・目標	1-2	<p>後藤 ホンダのレベル3、やはりメーカーが認めた工場以外では点検整備が出来ないという自動運転はもっと厳しくなるではないか。メーカーの囲い込み、そうなると認証工場にはそのような車両の整備は一切まわってこない。どこまでメーカーがそういった車の情報を学校に提供されるのか。現在もホンダが認めている工場でないと整備できない車種があるので</p>	
1. 教育理念・目標	1-2	<p>木下 ev ですね、バッテリーev の方が、いよいよホンダが、今年、原付1種の部分にはなるんですけども、一応、デリバリーを正式に発表していて、ホームページのラインナップの方には出てる。少し予定よりも遅れるみたいで、一応、6月導入って話がもう</p>	

		<p>少し遅れそう。段階的にスズキは来年から順次投入していく計画は出てるんですが、バッテリーEVで間違いはないんですが、上のクラスについては日本導入に関しても、今のところ、正式な情報出てないんで、その辺りの動向はちょっとわからない。</p> <p>カワサキではハイブリッドなどはあるが、先ほどの基本構造とその原理というものに関しては、やっぱり、学校で教えといていただけると、おそらく、就職してから何もわからない状態から教えていくっていうのが、ちょっと難しい。</p> <p>実際、教える側のレベルもそれほど高くはなく、正直 ev はこれからなので、教える側も一緒に学びながらやっていくような感じになる。その辺り、学校として教えられることを教えていただけると、おそらく、私たちもメーカーから聞く以外のことも情報が得られると、多分プラスになると思います。そういった部分は取り入れていただけたらなと思います。</p>	
1. 教育理念・目標	1-2	<p>後藤</p> <p>自動運転につきましては、まだまだ、進まないところはあるが、メーカーで開発段階で試運転をしたり、今、全てのトラックに、通信装置がついてました。新しい車につきましては、カメラと電波信号で、大体、自分の車の位置を把握したりできる。</p> <p>いすゞとしては、やっぱり電気自動車、EV 電気自動車を、2 トン車で出しました。我々も、これから自社のエンジニアにと研修をしていく計画。また、全ての工場に充電設備を備え付けた状況で、お客様が入られたら、充電して、使ったものは返して、というような設備を今、作ってる状況です。</p> <p>ハイブリッドもトラック業界遅れているが、昨年、授業にもハイブリッド車両を持ち込み授業を行った。電気自動車についても同様に対応したい。</p>	喜多 ありがとうございます。
1. 教育理念・目標	1-2	<p>矢川</p> <p>整備振興会は2 種養成施設とやっておりますが、職員にご協力いただいているが、先日、教育の職員が1 人辞めたがなかなか充足をしようと思ってもできない。学校では教員を募集すればすぐに来ていただけるのか。</p>	<p>村田</p> <p>採用は難しい。本校の場合、3 校の専門があり非常に苦労しております。条件で給与設定が、専門学校の場合、必ずしも高くないですし、かつ、学習指導面でもかなりしんどくなっている。ただ、本校だけでなく調査書を読んだと、どこの専門学校も教員を集めるのに苦慮していると書かれています。</p>
3 教育活動	3-5	<p>水元</p> <p>学習習慣について僕自身、2 年生から3 年生に上がったタイミングで、何かしらのスイッチがぱっと入って勉強する習慣がやっと身についたんですが、多分、今の学生さんも同じで何かしらのなんかポイント、スイッチが入る瞬間みたいなものがあると思う。タイミングですね。どうしても、勉強って言われても、あんまり強く言ってもダメですし、言わなかったらやらないと思う。程よい距離感で、1 人ひとりの学生さんも考え方も違うのでとても難しいとは思いますが、1 人ひとりをしっかり見て、言い方を変えていくと、何かしらの変化はあ</p>	



		<p>るのかなってというのは思います。          取り組む方法についても一人ひとり学生本人が紙ベースかスマートフォンで取り組むかも決めさせればよい。</p>	
3教育活動	3-5	<p>吉田          今まで会社でも試験があり勉強をやっていたんですが、勉強するのに時間がかかってしまうので、簡単に携帯でできるような状態であればやりやすい。国家試験前に携帯でテストできるものを利用していた。通学時間とかでできると嬉しい。</p>	<p>喜多          入学前学習は現在の冊子を使ってるので、それはオンライン型に戻すことを検討します。</p>
3教育活動	3-5	<p>後藤          委員からのご意見を聞かせていただいて、弊社でも先輩になかなか教えてもらえないところがあり、動画をアップしてどうがを見ながら作業を自分でやるというようにしていると、自分のスマホを使うことに抵抗があり、全ての工場には Wi-Fi は導入しているが、今お話にあったように紙を希望するスタッフもいる。          作業を確認したいときにオンラインでうちのサービスと繋いでしゃべりながら作業動画を見せながら行ったが、そうすると現場でプライベートなスマートフォンを見ていると傍から見ているとスマートフォン見て遊んでいると思われるなど抵抗があるというが、修理書類はなくなりペーパーレスにはなっている。基本的に外部診断器はパソコンでその中に全部入っているが、調べ物をするときにスマホの方が慣れているのでこちらがいいという程度。</p>	<p>喜多          ありがとうございます。</p>
4学修成果	4-4 4-5	<p>磯田          卒業した学生に対して私が1点思うのは、私の時代もそうだったかと思うが、国家資格を2級もしくは一級を取得するための勉強として、例えば、過去問とかを繰り返し勉強したりするっていうケースがあるかと思いますが、先ほども話がありました、そもそもその構造であったり、仕組みを理解して学んでいないスタッフがあります。いわゆるそのゴールが試験を合格するための目的になってしまっている人が何人かいるかな、みたいな印象も受けています。そもそも仕組みをまず、理解した上で、資格を取得するゴールにさせていただいたら、その部分を払拭されるのかなと感じています。そもそも自動車っていうものを、仕組み、構造を理解した上で国家2級、もしくは1級を、目指していただける学生さんが少しでも増えればと思っています。以上です。</p>	<p>喜多          ありがとうございます。磯田さんのおっしゃる通りだと思います。          どうしても、国家試験を受けるの、むしろ、国家試験を取ることが目的になってしまう部分が学校としては大いにありますし、学生たちも国家試験にさえ、受ければなんとかなるんだらうって、思ってしまうところがありますが、自分自身も、ありますが、          国家資格は業界に入るためのパスポートあるよといったところで、よく話もするが、一級の上級生の授業を担当することが多いのですが、2級を持って上がってきているんですけど、3年生になってくるんですが、基本的な構造が全く理解できてないと思うと強く感じることもあり、もう1度、教え直すといったこともありましたので、ちょっとその辺のところは、もう1度、我々としても、まず、教員側から意識を持ち直してですね、進めていかせていただきたいと考えております。ありがとうございます。</p>

7. 学生の受入れ募集	7-7	後藤 以前、入所してきた女性のエンジニアで男性には負けたくないというような方で大型整備を担当してたが、いつの間にか坊主頭にして、2年ほどしたら名前も変えて男性になりまして、会社としても初めてのケースで対応しきれず、退職する形にはなってしまった。女性エンジニアの方がなかなか長続きしないということでは遅れている部分があります。	
7. 学生の受入れ募集	7-7	矢川 LGBTQ とは少しずれたお話になるかも知れませんが、消防の管理団体をしているが、心配されておられるのは宗教の問題。異なる宗教の方々が入所されるとどう対応していいか困惑する。	喜多 本校には日本語学院が併設されており、国際自動車整備科のべ150名以上の留学生の対応をしてきた。礼拝する場所も用意しているが、今ところお祈りの為に授業を抜けさせてほしいなど言ってきたことはない。
7. 学生の受入れ募集	7-7	木下 LGBTQ に関しては以前、男性で元々そういう夜のお店で働いていて、40代でメカニック希望で業務では化粧をしないなど事前の約束事がいくつかあったが、それを守り切れなかったため、退職となった。 まだまだ厳しい部分はあるかも知れないが、お客様と接しない部分の部署もあるので今後、あれば以前よりは何らかの提案はできるかと思う。	
7. 学生の受入れ募集	7-7	磯田 LGBTQ に関してはなかなかご本人さんから事実をおっしゃることがない限りわからないものがあるので、現状としては経験はないです。ただLGBTQの研修みたいなのに参加させてもらうことがあるんですが、例えば、手洗いのマークを、男女で分けるのではなくて、そういうような表記に変えるとか、企業としてできるところは、そういったところからなのかなとは思いますが。うちも女性の整備士さん、何名かいらっしゃいますけど男性、女性っていうので、本質とかも分けて使っていただいています。現状、会社としても対応できる、まだ、その場所もないというか、環境も整っていないというような状況です。  採用については関係なく平等に見てます。先ほどの宗教の話もありましたけど、もちろん、そのうち技能実習生とかも多数いて。お祈りする場所とかも、特設設けてるわけではないんですけど、そういう、対応していかないといけないことがあると思いますから、その部分に関しては、平等と言いますか、偏見の目で見るとはしていません。	喜多 人事の方になるかと思うんですけども、そういった、LGBTQを、逆に、もう、ちゃんと公言されてる方が、多分、採用試験に来られた場合については課題があると思う

3. 2022年度のご指摘および2022年度の課題と重点項目について

評価項目	項目番号	課題と今後の改善	
		昨年度の自己点検評価結果に対してや学校運営に対するご意見、ご質問があればお願いします。	
評価項目	項目番号	ご意見・質問 (委員)	回答 (事務局)
全体		矢川 私の方も勉強になるお話が伺えたと思うところがあった。	
		後藤 毎回、参加して私たちも教育の関係の仕事をしてまいりますので、すごく参考にさせていただいてる。私たちであればもうちょっと評価も甘くなる場所はあるんですけど、学生さんっていうところが我々の社員とはまた違いますのですごく参考にさせていただきます。	
		木下 同じ悩みをもっているように感じるところは、採用した卒業生らの学習意欲に個人差はあるが、いかに興味を持たせるかなんですが、前にもこの話したと思うんですけど、オートバイ大自体に興味を持っているわけではないのがすごく多い。自分から知識や情報を取りに行くっていうことがあるなしで、全然違います。どうやったら持っていけるのか。ということは今、常に考えて、今年の新人の子たち対象に学校の卒業生ではなくて、一般の方々、全く何もわかってない状況の子たちに、いかに興味を持たせて、見て覚えるという意識が全くない。昔はいちいち教えてもらえないのが当たり前で先輩がやっている作業を見て何やってんのかなっていうところが、自分で学んでいったのが、今の若い方にそういう姿勢がなかなかない。 何かしら、とっかかりとなる興味を持つきっかけを与えるや、卒業生の方が喋ってくれてましたけど、スイッチが入るっていうようなところで、自分から意欲的に取り組んでくれるように持っていけるのが、うちの会社でもすごく大きな課題となっている。学校の方でね、こういうことやるとうまくいる事案などが知れるといい。	
		水元 卒業生の枠で参加したが、学校の先生がこんな大変な取り組みをしていることが知れた。私も最終的には、教える立場になりたいなっていうのはあるので、今後も参考にしつつ、こういう機会があれば、積極的に参加していけるといいと思う。ありがとうございました。	
		吉田 卒業生として学校の会議の運営について教えていただいて、そういう中で育ってきたと改めて今、色々ありがたいなという用を感じた。今後も学校の方でやった部分を意識しながら、会社でもっと勉強しておけばよかったというのを考えながら、これからの	

			作業についていきたいとは思いますが、ありがとうございました。	
			<p>磯田</p> <p>正直、私、こういうことをしている学校さんがあるっていうの知らなくて、初めて参加させていただきまして、すごくびっくりしています。</p> <p>それが率直な意見で。その中でも、2点ありまして、まず、企業でもそうだと思う。数字でものを図るっていうのは、やっぱり非常に大切なことだと思います。また、その中でも社会貢献、地域貢献っていうところまで、この学校の中でこう見ておられるっていうところが、非常に素晴らしいなと私は感じましたので、これからも色々勉強を一緒にさせていただけたらと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p>	山根 ありがとうございました。
7) 総評	なかなか答えにくい質問に答えていただき、誠にありがとうございます。学校運営に対して何かご質問等あれば、ご自由にしてくださいと思います。今回、学校関係者評価委員会に初めてご参加していただいた委員の方からもご質問やご感想をいただき大変ありがとうございました。			
8) 今後の予定	学校関係者評価委員会は今年度の委学校関係者評価委員会は年一回の実施のため、今年度はこれで終了となります。学校運営等に関して、何か疑問であったり、アドバイス等ありましたら、学校はいつでも受け付けております。委員会を開く必要があれば、臨時の委員会を、開催いたしますので忌憚のない意見を、いつでもいただければ、ありがたいと思います。(山根)			

以上